

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑩障がいのある子どもの育成支援

- ◆ 障がいのある子どもの特性を理解し、子ども同士が生活を通してともに成長できるように、適切な配慮と環境を整えることが大事である。子どもたちが活動しやすいように、困っていることに気づいて、その子どもにあう支援の方法を見つけることが大切である。支援の必要な子どもと周囲の子どもが、不公平感を抱かないように、温かく肯定的に接するように心がけていきたい。常に保護者の心情に寄り添い支援できたらと思う。
- ◆ 年々、障がいのある子どもが増えていると言われています。子どもと保護者が必要としているときに適切な支援ができる様でありたいと思います。障がいの有無に関わらず、その子どもなりの生きやすい方法を身につけ、自立を増やし、よりよく生きるための支援をしていくことの重要性を認識しました。研修で知識を得ることが支援員としての行動に広がりを持ち、知識を活かすことでよりよい支援に繋がると感じ、研修の必要性をさらに感じました。
- ◆ 子どもたちは、障がいがあるなしに関係なく、一人ひとりが「みんなちがってみんないい」。誰にでも得意なこと、苦手なことがあることを理解し、みんなが平等であるように、分け隔てなく接するように心がけていきます。上手な褒め方、3つのルールを実践し、子どもたちを支援していけるようにしたいと思います。まずは、心穏やかに笑顔でいること、言葉かけや声のトーンにも気をつけ接していきたいと感じています。
- ◆ 支援を要する子、また、障がい児を見ていると、その日、そのときにより気持ちに変化が見られ、テンションの高い日は、支援する側で穏やかに、ゆっくりと、肯定的に話すよう気をつけています。できたときはとにかく褒めて、次の指示を出すように心がけています。また、守れるような約束をお互い話し合っ決めて、それができたときは褒めるようにしています。障がいを持つ児童にもいろんなケースが見られ、「余白」を持ち、今日学んだことを意識しながら支援につなげたいと思いました。
- ◆ 今回の研修を受講して、上手な褒め方や褒めるときのポイント、子どもに伝わりやすい言葉かけ・言葉選びなど、子どもの立場になって考えてみることで、早速、実践できるように努めたいと思いました。また、障がいのある子ども以外の周囲の子どもとの関わりの際も、さりげなく毎日の生活で温かく認めていることが伝わるような声かけをして、信頼関係を築いていきたいと思いました。